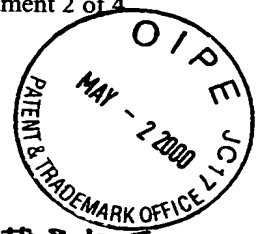


日 本 国 特 許 庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application:

1999年 5月17日

出 願 番 号  
Application Number:

平成11年特許願第136215号

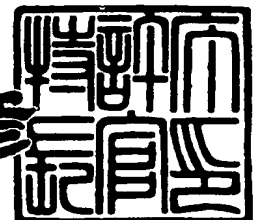
出 願 人  
Applicant(s):

株式会社三協精機製作所

2000年 3月 3日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

近 藤 隆 彦



出証番号 出証特2000-3013706

【書類名】 特許願  
【整理番号】 DOM9906401  
【提出日】 平成11年 5月17日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 G06K 13/02  
【発明の名称】 シャッター開閉機構  
【請求項の数】 4  
【発明者】



【住所又は居所】 長野県諏訪郡原村 10801 番地の 2 株式会社三協精  
機製作所 諏訪南工場内

【氏名】 平沢 賢司

【特許出願人】

【識別番号】 000002233

【氏名又は名称】 株式会社三協精機製作所

【代表者】 小口 雄三

【代理人】

【識別番号】 100087468

【弁理士】

【氏名又は名称】 村瀬 一美

【電話番号】 03-3503-5206

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 002107

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9800576

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 シャッター開閉機構

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 カード走行通路を閉鎖する閉鎖位置と上記カード走行通路を開放する開放位置との間を移動可能に設けられたシャッター板を備えてなるシャッター開閉機構において、上記シャッター板を移動させるための駆動源と、該駆動源の駆動力を上記シャッター板に連結するための連結部材とを有し、上記シャッター板の開閉側端面が上記閉鎖位置において上記カード走行通路とほぼ平行に閉鎖しているとともに、上記駆動源によって上記シャッター板の開閉側端面が上記カード走行通路とほぼ平行に移動するように構成したことを特徴とするシャッター開閉機構。

【請求項 2】 前記駆動源はソレノイドであり、前記連結部材は、上記ソレノイドによって移動するスライド部材と、該スライド部材に連結された 2 つの回動部材であり、該 2 つの回動部材により上記シャッター板の開閉側端面が上記カード走行通路とほぼ平行に移動するように構成したことを特徴とする請求項 1 記載のシャッター開閉機構。

【請求項 3】 前記 2 つの回動部材は前記スライド部材に従動動作するように連結され、前記閉鎖位置において、上記回動部材側からの移動を阻止する阻止部が前記 2 つの回動部材と前記スライド部材との間に形成されてなることを特徴とする請求項 2 記載のシャッター開閉機構。

【請求項 4】 前記連結部材は、前記駆動源によって移動するスライド部材と、該スライド部材に連結された一つの回動部材であり、該一つの回動部材により上記シャッター板の開閉側端面が上記カード走行通路とほぼ平行に移動するように構成したことを特徴とする請求項 1 記載のシャッター開閉機構。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、シャッター開閉機構に関する。更に詳述すると、本発明はカードリーダー（ライター）等のカード挿入口を開閉するのに適したシャッター開閉機構に関

するものである。

【0002】

【従来の技術】

カードリーダーには、防犯やいたずら防止の目的でカード挿入口（ゲート）にシャッター開閉機構を備えている。従来のシャッター開閉機構は、図7に示すように、カード挿入口101の左右どちらか一方に回転中心102を有するシャッター板103によってカード挿入口101全域を閉鎖するようにしている。即ち、ソレノイド104が作動するとシャッター板103が支軸（回転中心）102を中心に回動し、カード挿入口101を開閉する。シャッター板103はカード走行通路を横断するように設けられた溝内に落ち込むことでカード挿入口101を完全に閉じる。シャッター板103から溝内に落ち込んだ閉状態をマイクロスイッチ105によって検知するようにし、カード待ちの状態ではシャッター板103の閉状態を検知することができない場合には、シャッター板103と溝との間に異物が挟まれていると考えられることから犯罪を目的としたカードトラップ部材が仕掛けられていると判断し、カードリーダーの使用を停止するようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述のシャッター開閉機構では、支軸102を中心にシャッター板103を回動させてカード挿入口101を開閉するようにしているので、支軸102から離れた位置ではシャッター板103を落とし込む溝の深さをL2に出来るのに対し、支軸102に近い位置では溝の深さをL1（ $L1 < L2$ ）にしか出来ない。このため、支軸102から離れた位置にカードトラップ部材が仕掛けられた場合には、マイクロスイッチ105によってカードトラップ部材を比較的検知し易いが、支軸102に近い位置にカードトラップ部材が仕掛けられた場合には、そのカードトラップ部材が薄く柔らかいものであったとき等にはシャッター板103が閉位置まで回動したときと殆ど変わらない位置まで回動することになり、マイクロスイッチ105によってカードトラップ部材を検知し難く検知性能に劣っていた。

【0004】

また、シャッター板 103 を支軸 102 を中心に回転させるので、シャッター板 103 の支軸 102 から近い部分におけるストローク量を確保するためには支軸 102 から遠い部分をより大きくストロークさせる必要があり、大型のソレノイド 104 が必要となる。さらに、利用者がカードを素早く挿入した場合には完全に開く前のシャッター板 103 にカードが当たることもあるが、支軸 102 から遠い位置でシャッター板 103 にカードが当たった場合にもシャッター板 103 を確実に開けることが出来るようにするためには、ソレノイド 104 の出力を大きくする必要があり、このことからソレノイド 104 の大型化が必要となる。

#### 【0005】

本発明は、カードトラップ部材等の異物の検知性能に優れ、シャッター板を駆動するソレノイドを小型化することができるシャッター開閉機構を提供することを目的とする。

#### 【0006】

##### 【課題を解決するための手段】

かかる目的を達成するために請求項 1 記載の発明は、カード走行通路を閉鎖する閉鎖位置とカード走行通路を開放する開放位置との間を移動可能に設けられたシャッター板を備えてなるシャッター開閉機構において、シャッター板を移動させるための駆動源と、該駆動源の駆動力をシャッター板に連結するための連結部材とを有し、シャッター板の開閉側端面が閉鎖位置においてカード走行通路とほぼ平行に閉鎖しているとともに、駆動源によってシャッター板の開閉側端面がカード走行通路とほぼ平行に移動するように構成したものである。

#### 【0007】

カードトラップ部材等がシャッター板の間に挟み込まれるとシャッター板は完全に閉まることが出来ないが、閉鎖位置ではシャッター板の開閉側端面がカード走行通路とほぼ平行に閉鎖しているので、カード幅方向のどの位置にカードトラップ部材等が挟み込まれたとしてもシャッター板の隙間はほぼ同じになる。したがって、カード幅の全域に亘ってカードトラップ部材等を同様に検出することができる。また、シャッター板はカード走行通路とほぼ平行に移動するので、僅か

の移動量でカード幅方向の全域に亘ってカード走行通路を開放することができると共に、軽い力でシャッター板を移動させることができる。

【 0 0 0 8 】

また、請求項 2 記載のシャッター開閉機構は、駆動源はソレノイドであり、連結部材は、ソレノイドによって移動するスライド部材と、該スライド部材に連結された 2 つの回動部材であり、該 2 つの回動部材によりシャッター板の開閉側端面がカード走行通路とほぼ平行に移動するように構成したものである。

【 0 0 0 9 】

したがって、ソレノイドがスライド部材を移動させると、2 つの回動部材が同時に回動してシャッター板を移動させる。2 つの回動部材は同一のスライド部材に連結されているので同様に回動する。同様に回動する 2 つの回動部材がシャッター板の両端を移動させるので、シャッター板はカード走行通路とほぼ平行に移動する。

【 0 0 1 0 】

また、請求項 3 記載のシャッター開閉機構は、2 つの回動部材はスライド部材に従動動作するように連結され、閉鎖位置において、回動部材側からの移動を阻止する阻止部が 2 つの回動部材とスライド部材との間に形成されている。

【 0 0 1 1 】

2 つの回動部材はスライド部材に従動動作するので、ソレノイドがスライド部材を移動させると 2 つの回動部材が回動する。これにより、ソレノイドの操作によってシャッター板を移動させることができる。一方、回動部材とスライド部材の間には阻止部が設けられているので、回動部材の動きに対してスライド部材は従動動作しない。このため、閉鎖位置のシャッター板を無理に開放位置に移動させようとしても、スライド部材を移動させることは出来ないで、シャッター板を移動させることが出来ない。

【 0 0 1 2 】

さらに、請求項 4 記載のシャッター開閉機構は、連結部材は、駆動源によって移動するスライド部材と、該スライド部材に連結された一つの回動部材であり、該一つの回動部材によりシャッター板の開閉側端面がカード走行通路とほぼ平行

に移動するように構成したものである。したがって、ソレノイドがスライド部材を移動させると、一つの回動部材が回動してシャッター板をカード走行通路とほぼ平行に移動させる。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の構成を図面に示す最良の形態に基づいて詳細に説明する。

【0014】

図1～図4に、本発明のシャッター開閉機構の実施形態の一例を示す。シャッター開閉機構は、カード走行通路19を閉鎖する閉鎖位置（図1の実線位置）とカード走行通路19を開放する開放位置（図1の2点鎖線位置）との間を移動可能に設けられたシャッター板2を備えてなるもので、シャッター板2を移動させるための駆動源3と、該駆動源3の駆動力をシャッター板2に連結するための連結部材4とを有し、シャッター板2の開閉側端面2aが閉鎖位置においてカード走行通路19の面とほぼ平行に閉鎖するとともに、駆動源3によってシャッター板2の開閉側端面2aがカード走行通路19の面とほぼ平行に移動するように構成されている。

【0015】

本実施形態では、駆動源3は例えばソレノイドであり、連結部材4は、ソレノイド3によって移動するスライドレバー（スライド部材）5と、スライドレバー5に連結された2つのスイングアーム（回動部材）6であり、2つのスイングアーム6によりシャッター板2の開閉側端面2aがカード走行通路19の面とほぼ平行に移動するように構成されている。また、2つのスイングアーム6はスライドレバー5に従動動作するように連結され、閉鎖位置において、スイングアーム6側からの移動を阻止する阻止部7が2つのスイングアーム6とスライドレバー5との間に形成されている。

【0016】

挿入口ユニット8が取り付けられるベース板9には、ソレノイド3が取り付けられている。ソレノイド3の駆動力は、スプリングピン10を介してスライドレバー5に伝達される。このスライドレバー5は、ベース板9に2本の軸11によ

リスライド可能に支持されている。

【0017】

スイングアーム 6 は、軸 2 0 によって回転可能にベース板 9 に支持されている。スイングアーム 6 の一端には、シャッター板 2 が軸 1 2 により回転可能に連結されている。また、スイングアーム 6 の他端には、図 5 に詳しく示すように逆 L 字形状の孔 6 a が設けられており、この孔 6 a 内をスライドレバー 5 に固定された軸 2 1 が貫通している。そして、シャッター板 2 が閉鎖位置に移動している場合に軸 2 1 に対向する部分が阻止部 7 となっている。また、スライドレバー 5 の移動により軸 2 1 が当接する部分が当接部 1 3 となっている。

【0018】

スライドレバー 5 にはマイクロスイッチ 1 4 の検知部 5 a が設けられており、シャッター板 2 が完全に閉鎖位置に移動した場合にマイクロスイッチ 1 4 がオンする様に設定されている。このマイクロスイッチ 1 4 は図示しないホスト装置にオン信号を供給する。また、挿入口ユニット 8 にはプリヘッド 1 5 が取り付けられており、カード 1 の挿入を検知できるようになっている。さらに、挿入口ユニット 8 とベース板 9 の間には、シャッター板 2 が落とし込まれて閉鎖位置となる溝 1 8 が設けられている。

【0019】

カード挿入口 1 6 にカード 1 が挿入され、このカード 1 の挿入をプリヘッド 1 5 によって検知すると、ソレノイド 3 がオンとなる。このソレノイド 3 はリターンスプリング 1 7 のばね力に抗してスプリングピン 1 0 を引き寄せ、スライドレバー 5 を図 1 の矢印 A 方向にスライドさせる。したがって、スライドレバー 5 に固定された軸 2 1 が逆 L 字形状の孔 6 a 内を移動して当接部 1 3 に当たってこれを押し進め、スイングアーム 6 を矢印 B 方向に回転させる。これによりシャッター板 2 が持ち上げられて開放位置に移動され、図 1 中 2 点鎖線で示すように、カード挿入口 1 6 (カード走行通路 1 9) をオープンする。このとき、2 枚のスイングアーム 6 がシャッター板 2 の両端を同じように持ち上げるので、シャッター板 2 の開閉側端面 2 a はカード走行通路 1 9 に対しほぼ平行に移動する。

【0020】

一方、ソレノイド3をオフすると、リターンスプリング17によってスプリングピン10が押し戻され、スライドレバー5が元の位置に戻る。したがって、当接部13を押していた軸21が当接部13から離れる方向に移動し、これによってシャッター板2を持ち上げていた力が解除されるので、シャッター板2はスイングアーム6を矢印B方向と反対方向に回動させながら下降する。即ち、図1中実線で示すように、シャッター板2がカード挿入口16をクローズする。このとき、2枚のスイングアーム6がシャッター板2の両端を同時に降ろすので、シャッター板2の開閉側端面2aはほぼ平行に移動してカード幅の全域に亘って溝18内に深く入り込む。

#### 【0021】

そして、シャッター板2が閉鎖位置まで完全に移動すると、スライドレバー5に固定されている軸21が孔6aの阻止部7に対向する位置まで移動する。この状態ではシャッター板2を持ち上げて無理にオープンさせようとしても、阻止部7が軸21に当たってスイングアーム6の回動がロックされるので、シャッター板2をオープンすることが出来ない。即ち、いたずら等によってシャッター板2がオープンされるのを防止する機構を持たせることができる。

#### 【0022】

このシャッター開閉機構では、シャッター板2を平行移動させて開閉する。したがって、カード幅全域に亘り少ない移動量でカード挿入口16をオープン・クローズすることができる。また、利用者がカード1を素早く挿入して完全に開く前のシャッター板2にカード1が押し付けられた場合であっても、小さな力でシャッター板2を開けることが出来る。これらのため、小型のソレノイド3を使用することができる。

#### 【0023】

さらに、シャッター板2を平行移動して開閉するので、閉鎖位置ではカード幅の全域に亘りシャッター板2の開閉側端面2aを溝18に深くはめ込むことができる。このため、どの位置にカードトラップ部材が挟み込まれたとしても同様に検知することができ、カードトラップ部材の検知性能が向上する。

#### 【0024】

なお、上述の形態は本発明の好適な形態の一例ではあるがこれに限定されるものではなく本発明の要旨を逸脱しない範囲において種々変形実施可能である。例えば、図6に示すように、ソレノイド3によって移動するスライドレバー5と、スライドレバー5に連結された一つのスイングアーム6によって連結部材4を構成し、一つのスイングアーム6によりシャッター板2の開閉側端面2aをカード走行通路19とほぼ平行に移動するように構成しても良い。なお、図6の符号22は、閉鎖位置及び開放位置においてシャッター板2を平行に固定する度当たりである。

#### 【0025】

また、シャッター板2を持ち上げることで開放位置に移動させるつり上げ開方式に限るものではなく、シャッター板2を降ろすことで開放位置に移動させるつり下げ開方式にしても良い。

#### 【0026】

#### 【発明の効果】

以上説明したように、請求項1記載のシャッター開閉機構では、シャッター板を移動させるための駆動源と、該駆動源の駆動力をシャッター板に連結するための連結部材とを有し、シャッター板の開閉側端面が閉鎖位置においてカード走行通路とほぼ平行に閉鎖しているとともに、駆動源によってシャッター板の開閉側端面がカード走行通路とほぼ平行に移動するように構成しているので、カード幅方向の全域に亘ってシャッター板の間に挟み込まれた異物の検出を確実に行うことが出来る。このため、カードトラップ部材の検知性能を向上させることが出来る。また、シャッター板を開閉するためのストロークをカード幅方向の全域に亘り最小限にすることが出来るので、小型の駆動源の使用が可能になる。

#### 【0027】

また、請求項2記載のシャッター開閉機構では、駆動源はソレノイドであり、連結部材は、ソレノイドによって移動するスライド部材と、該スライド部材に連結された2つの回動部材であり、該2つの回動部材によりシャッター板の開閉側端面がカード走行通路とほぼ平行に移動するように構成しているので、簡単な構造でシャッター板をカード走行通路とほぼ平行に移動させることが出来る。

【0028】

また、請求項3記載のシャッター開閉機構では、2つの回動部材はスライド部材に従動動作するように連結され、閉鎖位置において、回動部材側からの移動を阻止する阻止部が2つの回動部材とスライド部材との間に形成されているので、閉鎖位置に移動しているシャッター板をいたずら等によって無理に開放位置に移動させることが出来ず、このようないたずら等を防止する機構を持たせることができる。

【0029】

さらに、請求項4記載のシャッター開閉機構のように、連結部材を、駆動源によって移動するスライド部材と、該スライド部材に連結された一つの回動部材で構成し、該一つの回動部材によりシャッター板の開閉側端面がカード走行通路とほぼ平行に移動するようにしても良い。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明のシャッター開閉機構の実施形態の一例を示す正面図である。

【図2】

同シャッター開閉機構の平面図である。

【図3】

同シャッター開閉機構のシャッター板がカード走行通路を閉鎖する様子を示す断面図である。

【図4】

同シャッター開閉機構の閉鎖位置を検知する機構を示す概略構成図である。

【図5】

同シャッター開閉機構のスイングアームの要部拡大図である。

【図6】

同シャッター開閉機構の他の実施形態を示す概略構成図である。

【図7】

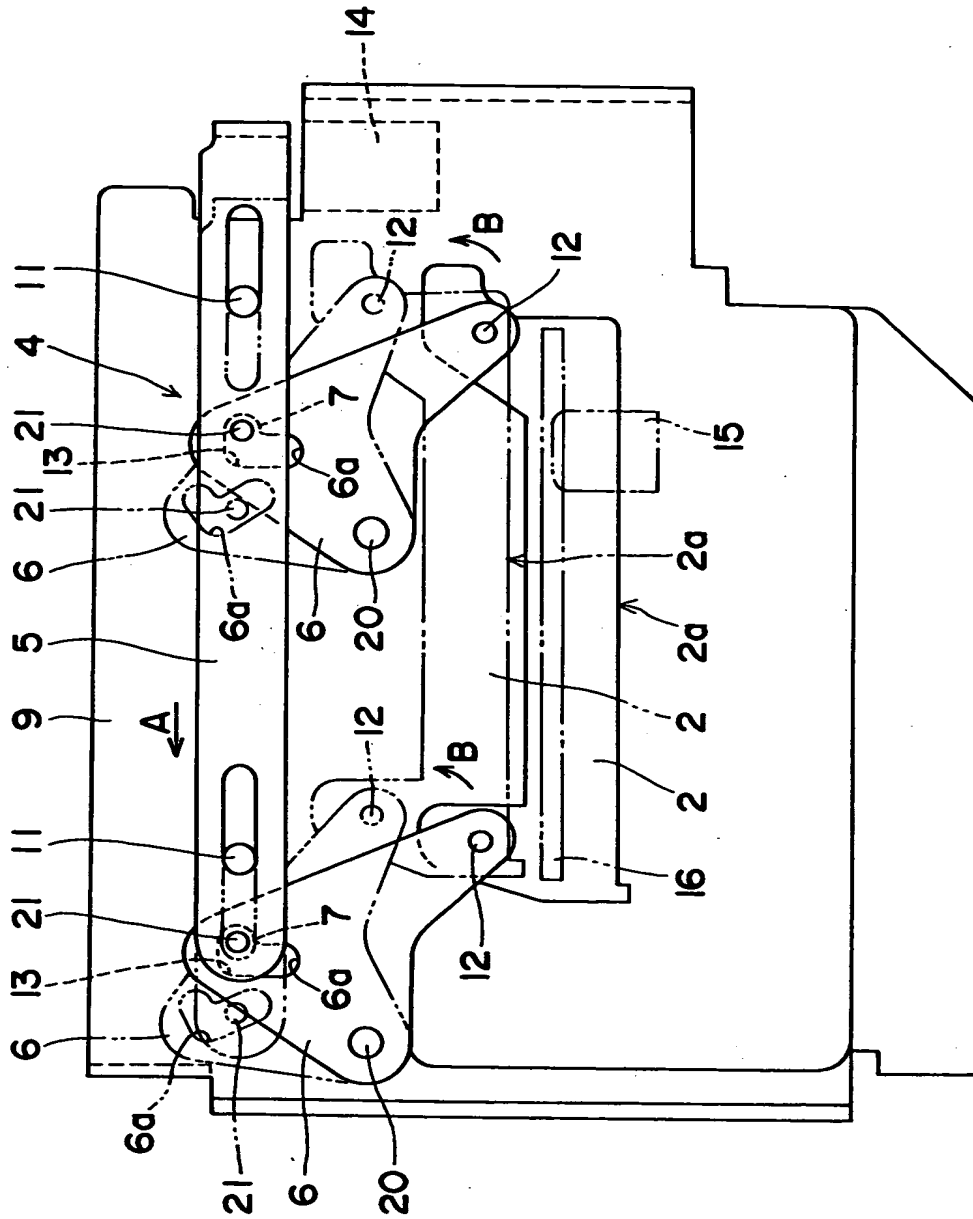
従来シャッター開閉機構の概略構成図である。

【符号の説明】

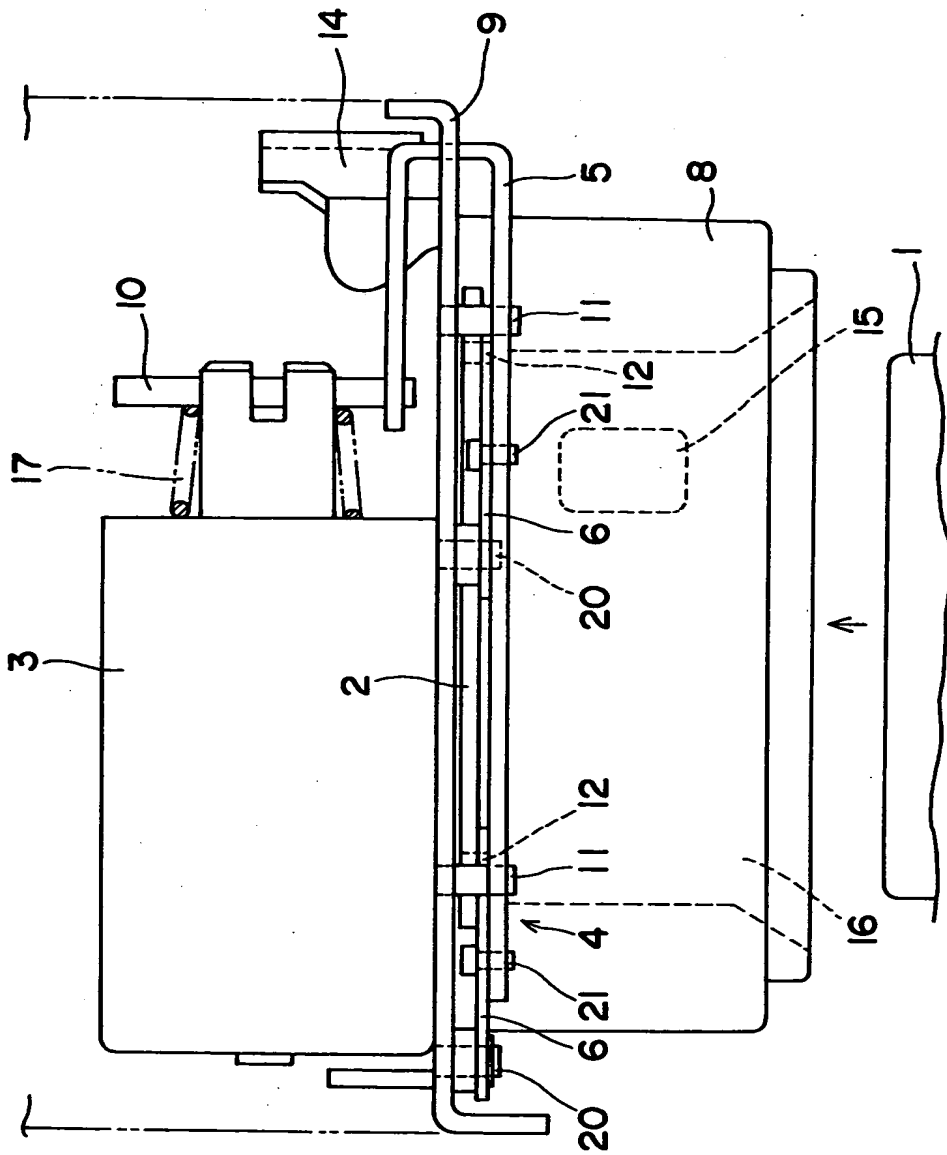
- 1 カード
- 2 シャッター板
- 2 a 開閉側端面
- 3 ソレノイド (駆動源)
- 4 連結部材
- 5 スライドレバー (スライド部材)
- 6 スイングアーム (回動部材)
- 7 阻止部
- 1 9 カード走行通路

【書類名】 図面

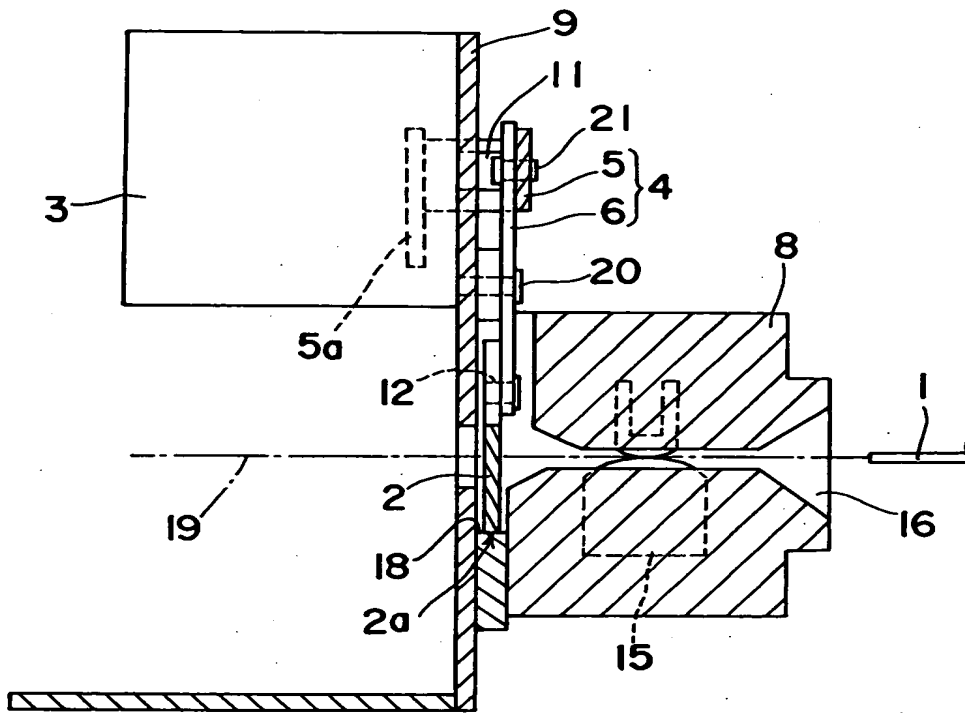
【図 1】



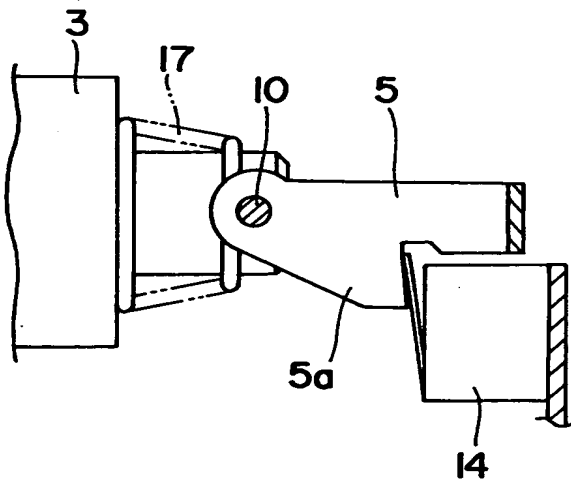
【図 2】



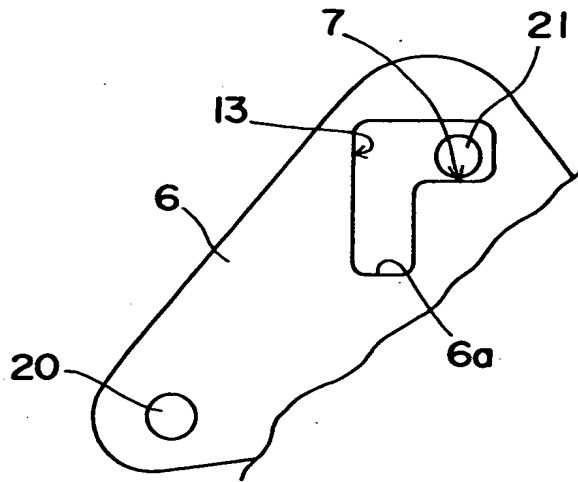
【図 3】



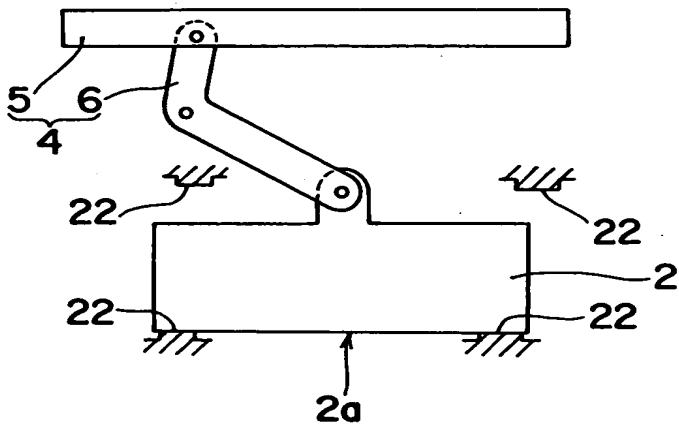
【図 4】



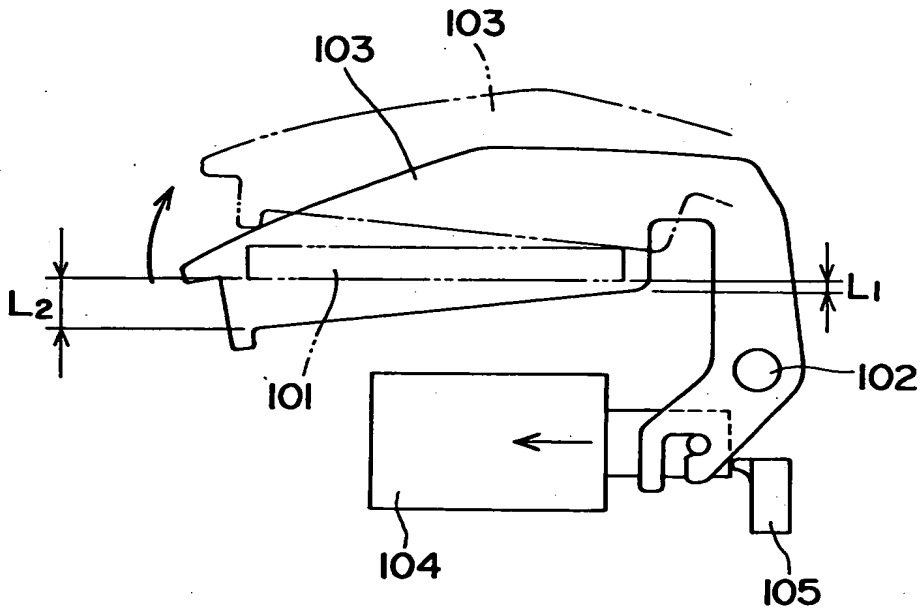
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 カードトラップ部材の検知性能を向上させる。小型の駆動源の使用を可能にする。

【解決手段】 カード走行通路を閉鎖する閉鎖位置（実線位置）とカード走行通路を開放する開放位置（2点鎖線位置）との間を移動可能に設けられたシャッター板2を備え、シャッター板2を移動させるための駆動源と、駆動源の駆動力をシャッター板2に連結するための連結部材4とを有し、シャッター板2の開閉側端面2aが閉鎖位置においてカード走行通路とほぼ平行に閉鎖しているとともに、駆動源によってシャッター板2の開閉側端面2aがカード走行通路とほぼ平行に移動するように構成した。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 2 2 3 3 ]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 0 日

[ 変更理由 ] 新規登録

住 所 長野県諏訪郡下諏訪町 5 3 2 9 番地

氏 名 株式会社三協精機製作所